



(出所) ベネズエラ国軍報道部 (@PrensaFANB) “暫定政権 ベネズエラ国軍の上層部を一新”

暫定政権の新国軍体制

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

ロドリゲス暫定政権はアレックス・サアブ工業・生産相やタレク・ウィリアム・サアブ検事総長などマドゥロ政権下で重用されていた政権内の重要人物を相次いで交代させている。

そして、3月に人事交代の波は軍部まで押し寄せ、10年以上、国防相を務めていたパドリーノ・ロペス国防相をはじめ、軍部上層部を一新した。

本稿では、ロドリゲス暫定政権が一新した軍部上層部について確認したい。

軍上層部一新の理由は？

ロドリゲス暫定政権は就任以降、地盤固めを進めており、マドゥロ大統領体制を徐々に変えている。

これまでの人事変更は、経済担当副大統領、財務相、国内工業・生産相などの政府閣僚が中心だったが、ロドリゲス暫定大統領は3月18日～20日にかけて軍部上層部を一気に交代させた。

今回の軍部上層部の一斉交代の理由について、確実なことは言えないが、現状を踏まえればいくつかの考察は可能である。

1つ目は「クーデター因子の排除」。

暫定政権とトランプ政権との関係は極めて良好で、短期的に見て現在の暫定政権は外部からの政権交代圧力をほとんど感じていない。

ベネズエラ国内での野党の存在感はほぼ皆無で、短期的に暫定政権が交代し得る要素があるとすれば、クーデターなど軍部の離反による政権交代だろう。

そのような背景から、軍上層部を一新することで、マドゥロ派閥の人物を降ろし、ロドリゲス暫定大統領が信頼できる人物を上層部に付け、クーデターのリスクを下げたと推察される。

2つ目は「ポスト配分を巡る権力再編」。

暫定政権になり、政府内部では激しい権力争いが繰り広げられていると想像する。「クーデター因子の排除」と近い話ではあるが、暫定政権に忠誠を誓う見返りとして自身の望むポジションを得た結果という可能性もある。

3つ目は「米国政府の意向」。

米国政府は軍部上層部を中心とした「太陽カルテル」を問題視している（太陽カルテルについては[「ウィークリーレポート No.432」](#)参照）。

米国政府がベネズエラと麻薬取り締まり対応で協力関係を強化するにあたり、ベネズエラ軍の人事に口を出すのは自然であり、米国政府の意向を汲んだ人事交代の可能性もあるだろう。

ゴンサレス・ロペス国防相はロドリゲス派閥

今回の軍部一新の目玉は、グスターボ・ゴンサレス・ロペス氏の国防相就任である。今回、軍上層部に就いた新任者の多くはゴンサレス氏が信頼している人物の可能性が高い。

グスターボ・ゴンサレス・ロペス氏は、これまで内務司法相、SEBIN 長官（公安組織）など治安維持関連の中枢にいた人物である。

彼が SEBIN 長官を務めていた時期（2017年4月～7月）にベネズエラでは、連日のように抗議行動が起き、3か月の間に軍人を含め127名超が死亡する惨事があった。

彼は、この時に「人権侵害の主犯格の1人」として米国から名指しされた人物。米国政府がこの人事を容認したのは米国が人権面ではなく、統治安定性や統制可能性を優先したということかもしれない。

また、何よりゴンサレス・ロペス氏が国防相に就任したのは、ロドリゲス暫定大統領の信頼があつてこそだろう。

ロペス新国防相がデルシー・ロドリゲス暫定大統領と関係が近い人物であることは彼のキャリアから想像に難くない。ロペス新国防相は、ロドリゲス暫定大統領の動きに合わせてキャリアを変えている。

SEBIN は、副大統領府の影響が強い公安組織である。グスターボ・ロペス氏は、2019年～24年まで SEBIN 長官を務めており、デルシー・ロドリゲス氏が副大統領だった時期と重なっている。

また、グスターボ・ロペス氏は、2024年10月から新たにPDVSA内に設置された「独立戦略担当」という役職に任命された。

デルシー・ロドリゲス副大統領(当時)は、2024年8月から石油相を兼任した。石油相を兼任した2カ月後にグスターボ・ロペス氏がPDVSAの独立戦略担当に就任したのは意味があるはずだ。

ロドリゲス副大統領(当時)は、PDVSA内部を監視するために諜報能力に長けたロペス氏をPDVSAへ送り込んだという見方が自然だろう。

また、26年1月にロドリゲス暫定政権が発足してすぐにグスターボ・ロペス氏は大統領護衛長に就任。そして、今回の国防相就任に至っている。

このようにグスターボ・ロペス氏のキャリアは、デルシー・ロドリゲス暫定大統領と共にあり、彼女が絶大な信頼を置いている人物であることが想像できる。

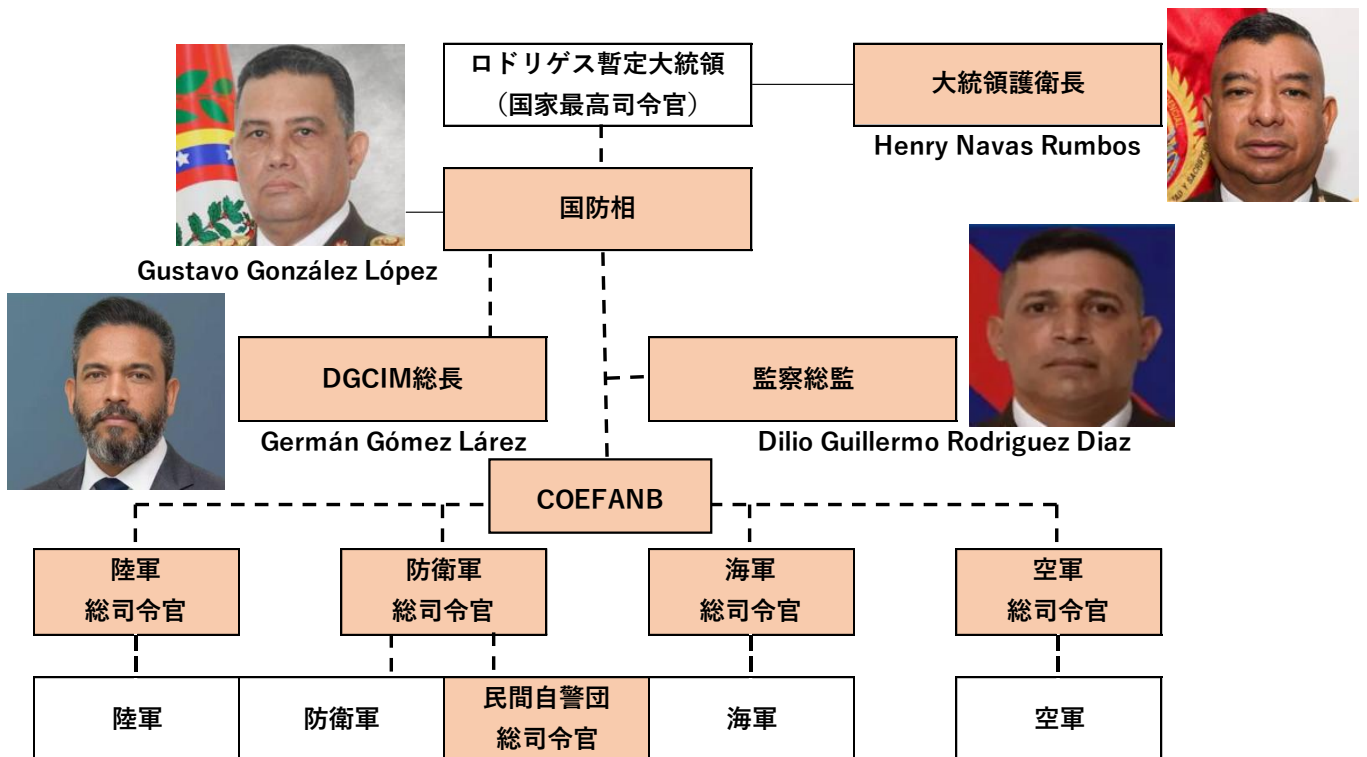
ベネズエラ国軍の指揮系統

下図は国軍の指揮系統を示したものである。

ベネズエラ国軍の最高司令官は、大統領、つまり、ロドリゲス暫定大統領である。

基本的には大統領の下に国防省(国防相)があり、その下に後述する「オペレーション戦略指令室(COEFANB)」があり、その下に陸軍・海軍・空軍・国家防衛軍があるというイメージになる。

図：軍部の指揮系統イメージ



(注) 国軍組織法、報道を参考に弊社作成、色塗りの役職は今回人事交代が発表された役職

なお、民間自衛団は、制度上は陸軍・海軍・空軍・防衛軍と並び独立した軍構成要素だが、実務上は正規軍の補助戦力として機能している。

また、国防省に紐づくような形で軍部内を監視・摘発などスパイ的な活動をする DGCIM という組織がある。

他、DGCIM と近い役割として、監察総監という役職がある。

監察総監は原則 DGCIM のようなスパイ活動はせず、制度・規則を順守させるなど軍の規律を維持するための組織という位置づけにある。

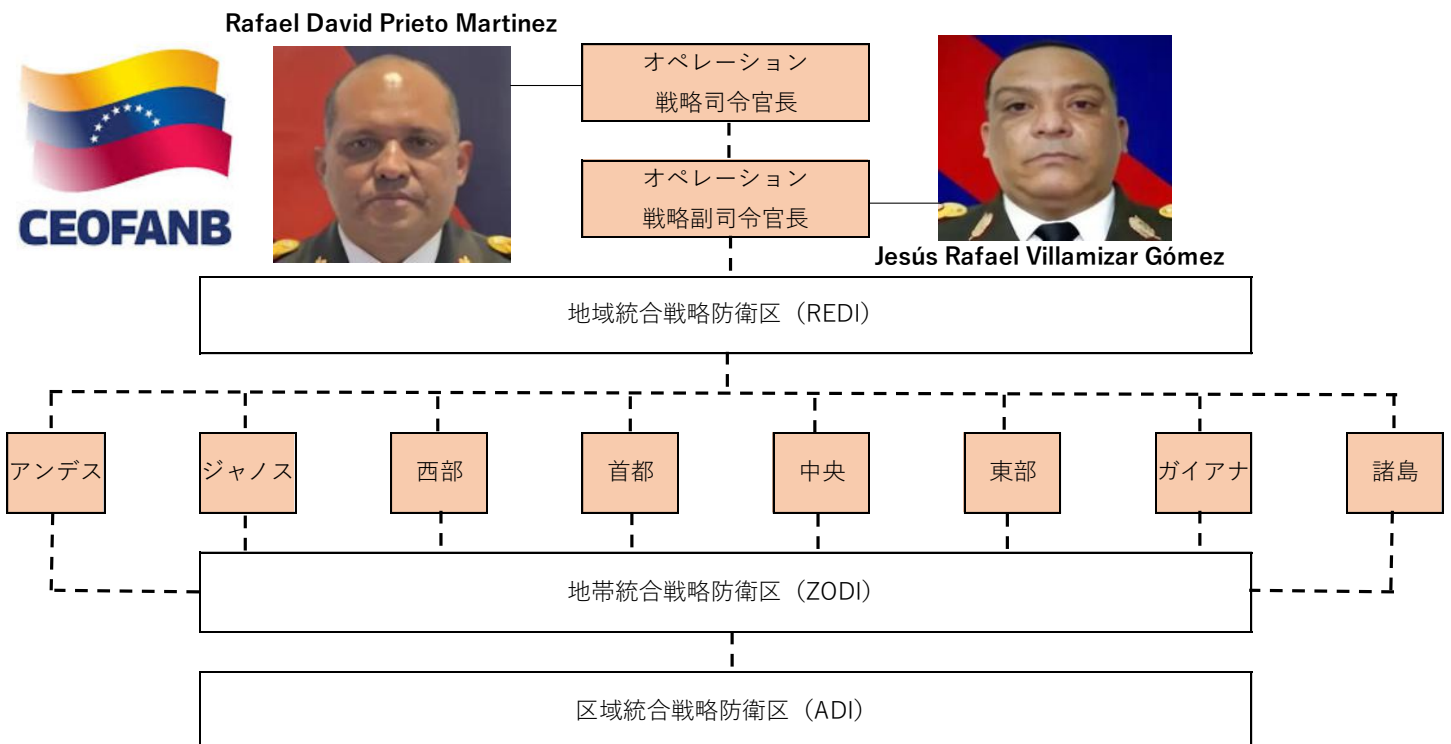
COEFANB 軍の戦略立案・指揮グループ

「オペレーション戦略指令室 (COEFANB)」は、ベネズエラ国軍全体をまとめる司令グループで「軍事作戦の計画・実行」「防衛・内部治安対策」などを計画するグループ。

指揮系統で言うと、大統領あるいは国防相の下部に位置する。

COEFANB は、地域別に戦略を立案しており、その地域単位として REDI、ZODI、ADI で分けている。

図： ベネズエラ国軍 COEFANBのヒエラルキー



注) 国軍組織法、報道を参考に弊社作成、色塗りの役職は今回人事交代が発表された役職

REDI、ZODI、ADIは、COEFANBが立案した戦略を地域単位で遂行させる機能を持っており、この計画の実働部隊が陸軍・海軍・空軍・防衛軍という住み分けにある。

今回の人事交代により COEFANB も一新された。

COEFANBのトップである総司令官、ナンバー2の副司令官長が交代した。

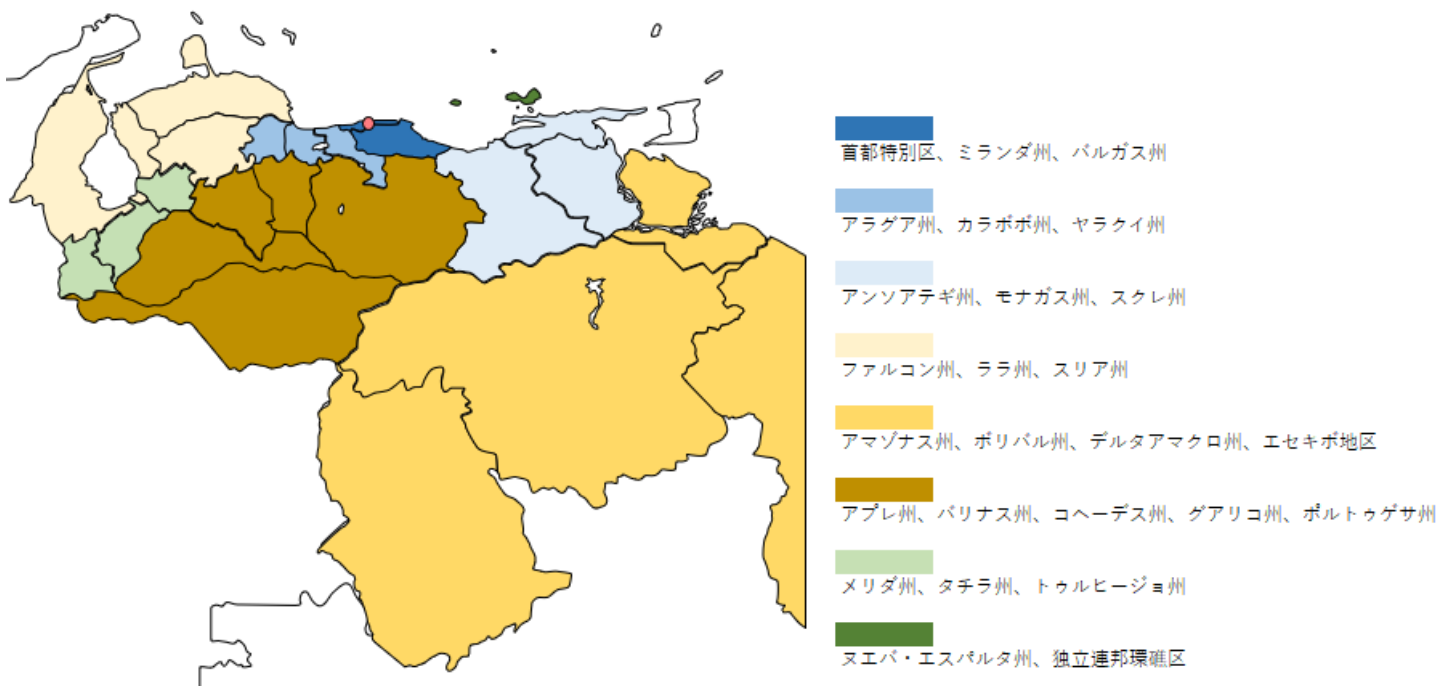
また、COEFANBが立案した戦略を地域単位で遂行させるREDI8地域の全トップも交代した（REDIの区分は右表、下図を参照）。加えて、ZODIのトップは、26年1月に交代している（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1322](#)」）。

ベネズエラでは軍が石油・鉱業などの経済活動に深く関与している。今回の人事刷新は単なる安全保障上の再編にとどまらず、経済利権の再配分を伴う可能性がある。

表： 地域統合戦略防衛区（REDI）担当地域

首都戦略防衛区	首都特別区、ミランダ州、バルガス州
中央戦略防衛区	アラグア州、カラボボ州、ヤラクイ州
東部戦略防衛区	アンソアテギ州、モナガス州、スクレ州
西部戦略防衛区	ファルコン州、ララ州、スリア州
ガイアナ戦略防衛区	アマゾナス州、ボリバル州、デルタアマクロ州、エセキボ地区
ロス・ジャンス戦略防衛区	アプレ州、バリナス州、コヘーデス州、グアリコ州、ポルトゥゲサ州
ロス・アンデス戦略防衛区	メリダ州、タチラ州、トゥルヒージョ州
諸島戦略防衛区	ヌエバ・エスパルタ州、独立連邦環礁区

（出所）国防省発表





国防相



大統領護衛長



監察總監



DGCIM総長



陸軍總司令官



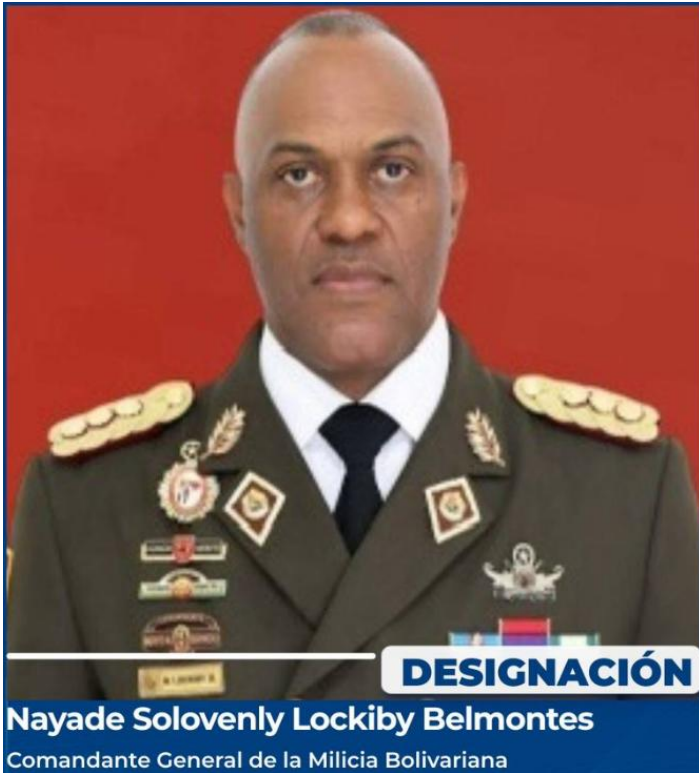
海軍總督



空軍總司令官



国家防衛軍總司令官



民間自警団総司令官



オペレーション戦略指令室 (COEFANB) 総司令官



COEFANB副司令官長



REDI 首都区戦略防衛区 司令官



REDI 中央戦略防衛区 司令官



REDI 東部戦略防衛区 司令官



REDI 西部戦略防衛区 司令官



ガイアナ戦略防衛区 司令官



ロス・ジャノス戦略防衛区 司令官



ロス・アンデス戦略防衛区 司令官



諸島戦略防衛区 司令官

以上